

証券市場新聞

1 第149号

日経平均株価

2万3783円72銭
▼191円90銭(前日比)
TOPIX
1792.65
▼8.54(前日比)

2018
10/8
月曜日

発行元 ココ・パートナーズ株式会社
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C
TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861
marketpress.jp



政局の秋で狙う銘柄は？

補正予算と米国中間選挙が焦点

10月下旬からは総裁選で3選を果たした安倍首相が新内閣のもとで秋の臨時国会に挑む。既に安倍首相や与党サイドからは相次ぐ災害に対応すべく補正予算の編成に意欲を見せており、予算案が通過すれば、これに関連する銘柄群が改めて物色されそう。国内での臨時国会に続いて米国では11月6日の中間選挙の投票日が迫ってくることから、トランプ大統領の発言を含めて、これら「政局の秋」の動向が全般の相場に少なからず影響をもたらさそう。

復興支援や農業IT化など

が高値圏を維持

秋の臨時国会では一様々な報道が流れて審議内容についてはいろいろが、赤字国債を発行しての規模なものではなく、北海道振興や西日本での台風による災害に絡んだ復興支援に絡むものになりそう。北海道の絡みでは建機レンタル大手のカタモト(9678)



秋の国会での補正予算が注目される

おり、補正予算可決に向けて引き続き物色される可能性がありそう。復興以外では来年夏までに全ての公立小中学校にクーラーを設置する予算を盛り込むとの報道も多い。これは、今夏の猛暑で熱中症が続出したことが教訓になっており、実現すればダイキン工業(6367)や富士通ゼネラル(6755)などに特需発

国内の農業の競争力を高めるためのIT化を強化する予算計画上、農業関連の活

生の可能性がある。これに加えて日米通商協議(FFR)への対応も補正予算に絡んでくるかも知れない。先の会合では貿易拡大の枠組みで一一致し、米国側は農産物などの日本の市場開放を求めていることが伝えられて

用推進に取り組むオプティム(3694)や全国の生産者と密接に繋がっている農業総合研究所(3541)などが注目されそう。

一方、米国では1月6日の中間選挙の投票日が迫っている。トランプ大統領は他国による選挙介入を警戒しており、GMOクラウド(3788)やデジタル・インフォメーションテクノロジ(3916)が引き続き物色されそう。

日経平均日足チャート



伊藤忠商事の日足チャート



伊藤忠が急伸

上方修正と自社株消却

週明け1日、伊藤忠商事(800)が急伸。19年3月期の最終利益予想を4500億円から5000億円(前期比24.9%増)へ上方修正し、37円としていた期末配当を46円に増配すると発表したことを好感した買いを集めた。引き続き基礎収益が順調に積み上がって

いるという。併せて発行済み株数の4.69%に当たる7800万株の自社株を消却すると発表したことで、需給改善も期待された。

アジアパイル希薄化

1日、アジアパイルホールディングス(5288)が急反落。347万9000株の公募増資と上限5

QRコード関連値飛ばす

1日、オプトエレクトロニクス(664)やメディアアシ

今週の動意銘柄

フェリシモ2Q利益増額

2日、フェリシモ(3396)が大幅反発。年初来高値を更新した。19年2月期の第2四半期累計連結業績予想について、営業利益を2600万円から2億6900万円(前年同期比41.6%減)へ、純利益を4900万円から3億7000万円(同25.1%減)へ上方修正した。売上高総利益率の改善や配

送方法の見直しに伴うコストの減少や上期に支出する広告費が減少したことが利益を押し上げている。

象印海外不振で減額

2日、象印マホービン(7965)が大幅続落。18年11月期の連結業績予想について、売上高を864億円から842億円(前期比1.4%減)へ、営業利

小野薬はノーベル賞

2日、小野薬品工業(4528)が急伸。年初来高値を更新した。ノーベル医学士理学賞をがんの治療法に革命をもたらした功績で京都大学の

正直いいさんの株で大判小判

5日の東京市場は3日続落となりました。金利上昇によるインフレ懸念から4日のニューヨーク市場でダウが200ドル超下落したことを嫌気する動きで、ソフトバンクやファーストリテイリングなど指値構成銘柄が売り込まれていきます。金利上昇が売り材料にされています。しかし、これまでの急ピッチな上昇状況や、これから利益確定売りが出たこと、判断できます。加えて12日のオ先物から振基本スタンスはそのタイミングでピックアップ(74)、ゼンリン(9474)が反発、ダイキン(657)も底堅く推移しています。ソースネクスト(4344)はポケットブックが外国人利用客向け接客ツールとして採用が増えていくことが伝えられ引き続き注目。花咲翁



スルガ銀アク抜け感

3日、スルガ銀行(8358)が

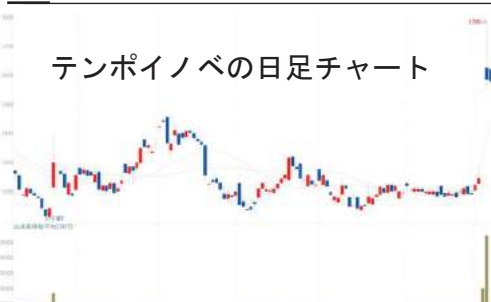
続騰。金融庁が週内にもスルガ銀行に投資用不動産向け融資の業務停止命令を出す方針を固めたと伝わったが、逆に当面の悪材料出尽くし感から買戻しを誘発するかたちになった。

テンポイノベはS高

上方修正と市場変更を好感

3日、テンポイノベーション(3484)がストップ高。19年3月期の単体業績予想について、売上高80億1100万円を80億4500万円(前期比20・3%増)へ、営業利益4億6000万円を6億3000万円(同52・3%増)へ上方修正した。加えて10月25日か

ら東証2部または1



部への市場変更と株式売却しと第三者割当による新株式発行も発表。親会社のクローズ(9428)も急伸した。

放電精密は利益い

3日、放電精密加工研究所(6469)が急反落。19年2月期第2四半期累計の連結決算を発表、売上高は57億1400万円(前年同期比15・1%増)、営業利益は3億7200万円(同10・1倍)と大幅な増収増益を

達成したが、利益確定売りに押された。

週足陰線包み足

先週の東京株式市場は反落となりました。

10月4日(木)に新値三本足が陰転。週末金曜日には先週安値を割り込んでいます。

9月末の終値は2万4120円ですので、週足は陰線形成です。

週足ローソク足は終値ベースで描きます。

9月最終週の月曜日の終値は2万3940円で、金曜日の終値は2万4120円でしたので180円の陽線でした。

先週月曜日の終値は2万4245円ですので、先週のローソク足の上からスタートし、先週の安値を下回っています。

酒田五法では「包み足」と言いますが、高値圏での「陰線包み足」は天井表示という解釈です。

週末の終値が2万3940円以下なので、陰線包み足が確定しました。

日々勇太郎



転ばぬ先のテクニカル

CFRPの可能性広げる

東レ

しなやかなタフポリマー技術

東レ(3402)は炭素繊維強化プラスチック(CFRP)の耐疲労特性を高めるしなやかなタフポリマー技術を開発した。CFRP本来の高い強度と剛性を維持しながら、従来比約3倍の耐疲労特性を実現することから、自動車、スポーツ用品、医療など幅広い分野への応用展開と市場拡大が期待される。CFRPのマトリックス樹脂(母材)に使われている熱硬化性樹脂は、分子内に3次元架橋点(網目構造)を持つことから耐熱性、強度、剛性など機械的特性に優れ、航空機や自動車などの構造

材料、テニスラケット、ゴルフシヤフト、釣り竿などのスポーツ用途、義肢などの医療用途などに広く利用されている。ただ、架橋点により分子の動きが制限されるため、繰り返しの変形により壊れやすくなるという問題があった。新技術は分子設計や構造解析技術と独自のナノアロイ技術を融合、マトリックス樹脂中に環状ポリマーをナノスケールで均一分散することで、耐疲労特性を飛躍的に高めることに成功した。機械的特性と耐疲労特性の両立により、CFRPのポテンシャルを最大限に引き出せるとしている。

企業レター

東レ(3402)は

材料、テニスラケット、ゴルフシヤフト、釣り竿などのスポーツ用途、義肢などの医療用途などに広く利用されている。ただ、架橋点により分子の動きが制限されるため、繰り返しの変形により壊れやすくなるという問題があった。

東急不HD希薄化懸念

4日、東急不ホールディングス(3289)が急落、年初

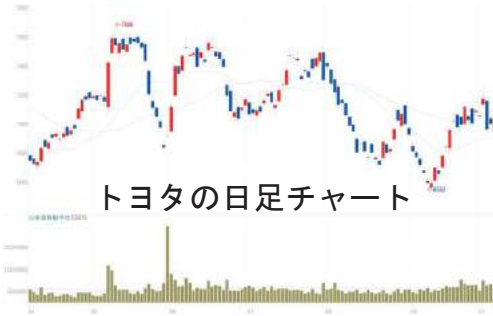
返済資金に充てる。

公開価格の2・1倍

来安値を更新した。公募と第三者割当てによる新株発行と自己株式の処分を発表したことで、希薄化と需給圧迫を懸念した売りがかさんだ。新株発行が最大で発行済み株式数の約12・3%におよぶ。手取概算額822億7800万円は設備投資と有利子負債の

4日、前日に東証マザーズへ新規上場したブリッジインタナショナル(7039)は公開価格2310円の2・1倍となる4920円で初値をつけた。インサイドセールスのアウトソーシング受託業務を主軸に法人営業改革支援を行う。

ブリッジの初値



トヨタの日足チャート

トヨタとソフトバンク高い

自動運転車移動サービスで提携

「自動運転車による移動サービス分野で包括的な協力を進め

4日、トヨタ自動車(7203)とソフトバンクグループ(9984)がこの午後1時半から都内で共同記者会見を行う

る」と発表。両社の本格提携は初めて。新会社「モネテックノロジーズ」を設立し、10月8年度内に共同事業を開始する計画で、20年代半ばまでにトヨタの

佐鳥電1Q営業益3.8倍

週末5日、佐鳥電機(7420)が統騰。19年5月期の第1四半期連結決算を発表、売上高は289億4800万円(前年同期比11.6%増)、営業利益は2億200万円(同3.8倍)、純利益は1億3300万円(同3倍)と大幅な増収増益を達成した。仕入先の販売方針転換による当社主要事業領域からの製品撤退があつたものの、PCおよび車載向け外資系電子部品や太陽光発電用パワーコンディショナーの販売増、

電気自動車「イー・パレット」を活用した自動運転移動サービスを提供する。新会社へはソフトバンクが50.25%、トヨタが49.75%を出資する。

多木化マツタケ栽培

5日、多木化学(4025)がストッパ。バカマツタケの完全人工栽培に成功したと発表したことが材料視された。バカマツタケはマツタケ近縁種のきのこで、香りや味はマツタケ以上ともいわれている。マツタケ近縁種の完全人工栽培はこれまで成功例はなく、今後の事業化による収益貢献を期待した買いが殺到した。

ハードディスクドライブ製品の新規販売が寄与している。

今週の動意銘柄

プロが教える



法人向け保険ならお任せ！

節税対策にも最適

お客様のニーズに応じた最適な商品・ベストプランを提携保険プランナーを通じてご提案します。

詳しくはココ・パートナーズ(株) アドバイザリー業務部まで。

info@marketpress.jp

潮流

弱気になったら負ける

現在も悲観的な個人投資家


 market/bAnk

うやく辿り着いたかといった感じだ。

27年前の1991年という年はバブルが崩壊した翌年に当たる。この年の安値は2万1456円、高値は2万7146円だ。まさに日本の失われた20年が始まる入り口に相当する。これから日本が失われた20年を取り返すことが出来る状況になってきたと考えれば明るい気持ちになれる。ただ、日本の株式市場を崩壊させたのは外国人投資家(ヘッジファンド)であり、上昇させているのも外国人投資家ということには情けなさを感じる。

9月第3週(18~21日)の日経平均先物とTOPIX先物の投資部門別売買動向を見ると、外国人投資家は日経平均先物とTOPIX先物を合算して1兆486億円を買い越した。現物株(東京・名古屋2市場、1部、2部と新興企業向け市場の合計)と合わせると、外国人投資家の1週間の買越額は1兆3257億円となった。この週の日経平均は2万3000円台に乗せ、一気に2万4000円まで急上昇した週だ。日経平均株価の大幅上昇が続く時には必ず外国人投資家(ヘッジファンド)による株価指数先物の大口買い手口が見られる。10月2日には2万

日経平均が27年ぶりの高値更新となった。良く上がったというよりも27年前の水準によ

4448円まで上昇し、9月10日からの上昇幅は2276円にも及ぶ。この間、僅か15日だ。ヘッジファンドは利益確定を入れながら次の買いタイミングを狙っている。

日経平均の上昇が続く過程で45%まで高

まっていた空売り比率は9月21日には35%まで下がった。しかし、2万4000円台まで上昇すると空売り比率は再度40%台に高まっている。また、9月第3週(9月25日~9月28日)の投資部門別株式売買動向を見ると、個人は3363億円の売り越した。これで3週連続の売り越しとなっている。9月第3週の売越額は6698億円と2014年11月以来、3年10カ月ぶりの大きさだった。個人投資家は日経平均が2万3000円を超えた時点から現在も株式市場に対して悲観的であることが分かる。日経平均の下落がさらに個人投資家を弱気にし、空売り比率が高まっていく。ヘッジファンドはこの状況を逆手にとって再度、買いを入れてくる。つまり、弱気になったら負けるのだ。

潮流銘柄はアドソル日進(3837)、グレイステクノロジー(6541)、ぐるなび(2440)。

から優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から

空売り比率高れば買い

アドソル日進の日足チャート

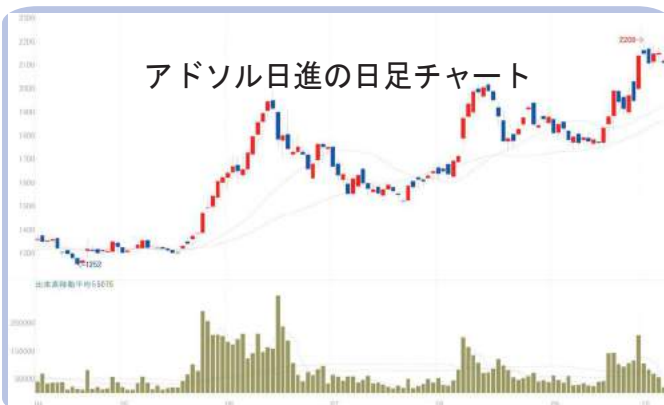


チャート から読む 騰落銘柄

鳥貴族 (3193)



9月13日の年初来安値2010円で底打ち、9月上旬の揉み合いゾーンを抜けてくる。貸借倍率0.69倍と需給も良好で、6月11日に付けた2899円近辺まではフシはない。既存店テコ入れ効果にも期待。

朝日インテック (7747)



9カ月にわたる4000円を中心にしたボックス相場を上放れ、上昇ピッチを速める。好業績観測に加え、信用倍率0.65倍、貸借倍率0.59倍の好取組みをテコに実質青空相場を一段高へ。

ニトリHD (9843)



9月26日に1万7590円まで上昇した後50日線割れまで値を崩す。円安による輸入コスト増で収益悪化を懸念。戻り鈍ければ8月22日の年初来安値1万5445円も視野に。58万株超の買い残も重石。

三井ハイテック (6966)



戻り試すも今期大幅減益見通しで買いが続かず大幅続落。日足は再び陰転し、週足は陽転ならず。年初来安値1287円を割り込めば800円近辺まで下値抵抗帯はなく、一段安で長期低迷も。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



エレコム (6750)

基盤強くM&Aで業容拡大

エレコム(6750)の株
価は8月8日の最高値318
5円更新後にスピード調整と
なっていたが、50日移動平
均線を下値支持ラインとして
ジワリと戻す展開となつてき
た。同社はパソコン周辺機器
やスマホアクセサリーなどで
盤石な基盤を構築するととも
にM&Aによる業容拡大にも
取り組んでおり、実質無借金
の好財務内容からも、300
0円奪回から再度高値を目指
す素地は十分ある。

19年3月期については、
第1四半期(4~6月)
の連結営業利益で27億
8900万円(前年同期
比22.2%増)と大幅
な増益を達成し
ており、通期予
想の110億円
(前期比7.9
%増)達成へ向
け順調に推移し
ている。バンド
イナムコホール
ディング傘下
のメガハウスと
連携してのAR
コンテンツへの
展開も注目され
る。(と)

ARコンテンツの展開も注目



チームスピリット (4397)

ERP一体クラウドで急成長

チームスピリット(439
7)は8月22日の上場日に
付けた最高値2437円を上
抜き、一段高へ向かってきた。
従業員への勤怠・就業管理や
工数管理、経費精算、電子稟
議などを一体化したシステム
「Team Spirit」をク
ラウドで提供するERP関連
企業で、業務管理にとどまら
ず、生産性を高めるソリュー
ションにより急成長。過去4
期は年率7割を超える売り上
げ拡大が続き、集計中の18
年8月期も売上高12億19
00万円(前の期比57.
9%増)と大幅増収で、
エンジニア育成やシステ
ム開発など先行投資負担
増を吸収して、
経常損益350
0万円の黒字(前
期の9600万
円の赤字)に
浮上した模様だ。
サブスクリプ
ション(定期購
読)ビジネスで
収益の安定性も
確保、今後は売
り上げ成長と
もに利益も急拡
大していく。(さ)

先行投資負担吸収し黒字に

※チャートは日足

主力系から下値を拾う

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

日経平均は2万4000円を突破し、更なる上値があれば調整入りする可能性が高いとみています。10月2日に2万

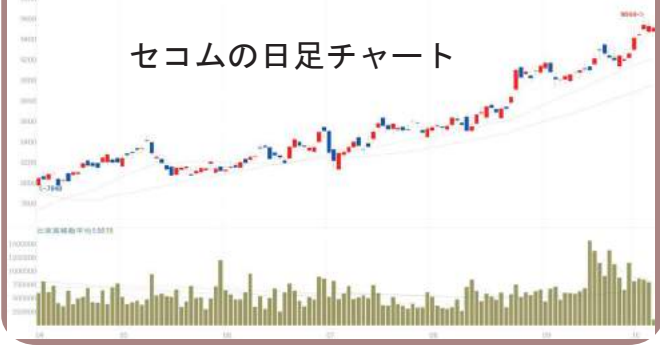
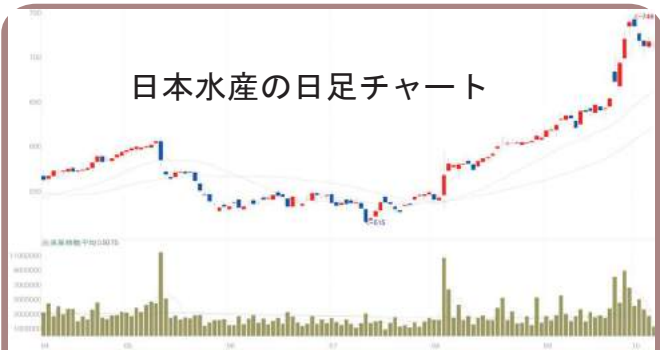
4448円の高値を付けた後は上値が重くなってきたことから、ほぼ想定通りの動きになっていいると見ています。基本的には急ピッチな上昇からの利益確定売りの動きと見ています。イタリアの財政懸念を売り材料に先物からの仕掛ける動きも散見されましたが、過度に下落した場面では下値を拾う動きも見られており、中期の上昇トレンド

下げても2万3500円程度

に変化はないと思います。イタリアの財政問題は解決するとみられており、円相場も114円50台まで弱含んでいきます。日経平均が調整局面に入ったとしても2万3500円程度が下値とみていますので、主力系銘柄の中から押し目を拾う作戦を断行してください。個別では小野薬品工業(4528)の制癌剤「オプシーボ」の生みの親の本庶祐氏(ほんじよた)が京大特別教授(が)がノベル医学賞を受賞したことが判明しそれを好感するようになり小野薬品はじめ医薬品株が一斉高となりました。ただ、買い一巡後は、多くの銘柄で伸びきった動きがみられましたので、一旦は調整入りになりそうです。

一貫推奨のアンジェス(4563)が逆行高をみせる場面もありますが、果たして、更なる上値を窺う展開になるのかどうか、

いまの水準では判断が難しいところですが、引け値で560円を抜ければ期待してもいいと思っています。いずれしても530円以下を拾うという作戦は一応、成功といえます。今回の狙いは日本水産(1332)とセコム(9735)。これらに加え、富士電機(6504)と三井住友フィナンシャルグループ(8316)、三井化学(4183)です。高野恭壽の株式情報(れ)でどや!! http://www.kabun-takano.com/ 毎日情報を配信中!



星野三太郎の株街往来

～実際の生活の満足度～

NHKの朝ドラ「半分、青い。」の先月末の最終週で東日本大震災当時の内容が描かれていた。ドラマの内容の評価は様々だが、被災地から部品が調達できなくなり、開発した製品が生産できないなど当時の日本は最悪の状態だったことを思い起こした。

これを観て知人や家族とは当時の株価も話題となったが、その時は日経平均が1万円を割れていた時代で、為替も1ドル90円台だった時代だった。知人の証券マンが「日経平均がここから倍になれば、業界も活気付くのになんてことを話していたのを覚えているが、現在の日経平均は倍増どころかバブル崩壊後の最高値を更新している。生活の満足度が指数同様に倍以上になっていないのが残念。これにはAIの普及など構造的な問題があるから仕方ないが、ここまで経済が立ち直ったのだと改めて感じたところだ。

数年後に日経平均が最高値の4万円近くにまで上昇することも否定できないが、おそらく最高値を更新しても、庶民の生活がバブル当時にまで向上するのは難しいだろう。これからは見た目の数字ではなく、実際の生活の満足度を如何に向上させるかが重要になってくると思う。



MEMBER OF

Dow Jones Sustainability Indices

In Collaboration with RobecoSAM

「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・アジア・パシフィック・インデックス」

大和ハウス工業（1925）は世界的なESG指数である「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・アジア・パシフィック・インデックス（DJ S I A s i a P a c i f i c）」に6年連続で選定された。「DJ S I」は、アメリカの出版社S&P Dow Jones Indices社とスイスの調査・格付会社Robeco

共同開発した株式指数。「DJ S I A s i a P a c i f i c」では、日本・アジア・オセアニア地域において、経済面・環境面・社会面での実績を様々な項目で分析し、持続可能な成長が見込まれる企業を選出している。今年度は、主要対象企業612社のうち150社（日本企業75社）が選出され、今回の選定ではサプライチェーンマネジメントや効率的な資源活用などが高く評価されている。

大和ハウス、6年連続で選定

D J S I A s i a P a c i f i c

共同開発した株式指数。「DJ S I A s i a P a c i f i c」

白杖使用者向け音声誘導システム」に注目

T O A

国際福祉機器展に出展

TOA（6809）は10月10日から東京ビッグサイトの東展示ホールで開催される「国際福祉機器展」に出展する。国際福祉機器展は日本発、アジア最大規模で開催される福祉機器の国際展示会。45回目を迎える今回も、14か国1地域から560社を超える企業・団体が出展。ハンドメイドの自助具から最先端技術を活用した介護ロボットまで、数多くの

製品が展示される。TOAブースでは、視覚障がい者、高齢者の方々への確実な情報伝達を目指したシステム・製品を紹介。なかでも、視覚障がい者への対応として、同社が開発した独自技術の「白杖使用者向け音声誘導システム」が注目される。これはカメラで撮影した画像から白杖を認識し、自動的に音声案内放送を流す装置。場所ごとに応じた案内を行うことで、白杖を使用している視覚障がい者の方を支援する。

企業レター

